

福岡県中部九市議会

議員研修会・親善スポーツ大会

去る十月十二日に福岡県中部九市議会議長会主催の議員研修会・親善スポーツ大会が、小郡市で開催されました。

午前中に議員研修会では、小郡市文化会館において、(株)西日本銀行専務取締役の右田喜章氏を講師に招き、「こんなふるさとがあったら」の講演がありました。興味深いまちづくりの話に参加議員は熱心に聞き入っていました。

また午後からは、会場を小郡市たなばた地域運動広場に移し、親善スポーツ大会が行われ、秋晴れの空の下、グラウンドゴルフでさわやかな汗を流し交流を図りました。



小郡市文化会館での議員研修会

議会傍聴にお越しく下さい

一般質問などの本会議傍聴の受付は、市庁舎1階市民ロビーからの傍聴席入り口で行っています。受付簿に住所、氏名を記入して、傍聴席にお入りください。

委員会の傍聴は、委員会の開催時間の一時間前までに議会事務局に申し出を行って下さい。

本会議の様子は市民ロビーに設置されているTVモニターでもご覧になれます。

また議会中は、一般質問の質問予定議員名と質問項目を掲載した一覧表を市内の銀行、農協の各支店や郵便局、公共施設などにも置いています。

お気軽に議会傍聴にお越しく下さい。

会派視察報告(市民21)

市民21は八月二十日から二十三日の日程で行政視察を行った。札幌市ではペットボトルリサイクルセンターを視察した。訪問した北海道ペトリサイクルは経済産業省のエコタウン補助事業として、公共と民間事業者が一体となったリサイクル団地にある民間会社で、回収ペトボトルの六十%をエコシートに再生しており、安い費用で再生できる仕組みを工夫し環境負荷の低減に努めていた。函館市では事業評価システムを視察した。新たな時代に対応した効率的で効果的な行政運営を進めるため、政策形成能力と政策の質の向上並びに住民に対する説明責任との目的で導入。本市でも近く導入予定だが参考となる方法や考え方を知ることができた。青森市では中心市街地活性化事業を視察した。まちづくりの基本を既存の都市機能を有効に活用し、持続可能なまち(コンパクトシティ)を形成することとし、行政と市民の協働によるまちづくり構想を推進。駅前商店街の活性化を図るため、主に学生を対象とした「ベンチャー支援事業」として、冬の豪雪にも適応した人が集まる魅力ある裏道商店を視察した。まちづくりは当市でも重要課題。面白い取り組み事例として参考になった。

会派視察報告(新政クラブ)

新政クラブは十月二十九日から三十一日までの日程で行政視察を行った。東京都日野市では、高齢者が一人暮らしの気楽さを保ちつつ、家事を軽減し、加齢や孤独による不安を解消できるような高齢者の共同住宅(グループリビング)を設置・運営していた。家に閉じこもりがちの高齢者が、同じような境遇の者同士心を触れ合うことにより、孤独のない安心感の中で、お互いに自立し、支え合い、温もりと生きる喜びを感じ合えるという高齢化社会には是非必要な施設である。茨城県土浦市では、女性が安心して、子どもを産み育てることができ環境整備事業の一環として、女性の社会進出(遠距離通勤)に対応するため、JR常盤線土浦駅前に市直営の保育所を開設していた。春日市でも女性の社会進出のため参考にすべき施策と感じた。埼玉県川越市では、談合防止対策として、①「誓約保証金制度」の導入②「談合情報一〇番」③抽選方法を取り入れた入札④談合情報のある業者の指名替え⑤積算内訳書の提出⑥不正行為を行った業者名の公表⑦公正取引委員会への談合情報の通報を採用していた。春日市でも談合の疑いが生ずれば参考にできる施策と感じた。

会派視察報告(新風)

新風は、十月二十九日から三日間で新潟県加茂市、埼玉県上尾市、千葉県市川市を視察した。加茂市では、駅前三商店街の区画整理と近代化事業を調査した。当市では、商店街を地域振興の担い手と位置づけ、三商店街各々の組合に独自の青写真を作り再開発を実現し行政も大型店の抑制や地元業者育成に努めて地域振興を強力に図っていた。上尾市では、さいたま市との合併の可否を住民投票した件について調査した。経過説明の中で相手市との事前協議がなかった事、議会と住民投票、行政の情報提供のあり方等様々な問題を残したまま投票がなされ、吸収合併に反対との判定に賛成団体とのしこりが残り住民投票の実施については、充分な準備が必要である旨の説明が強く記憶に残った。市川市では、電子市役所と議会情報の提供について調査した。当市では、早い時期より情報の共有化や相互通信をHPを利用して行い、現在では公共施設の予約等がコンビニの端末で出来るなど先進的取り組みがなされていた。議会でも独自にHPを作り、随時新しい情報を追加更新し市民へ情報を開示し意見を収集するなどIT化の事例として参考になった。